

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
 代表：千葉茂樹
 発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42
 聖パウロ女子修道会内
 TEL 03 - 3479 - 3941 E-mail: info@signis-japan.org
 http://signis-japan.org/

ご復活おめでとうございます。新しい教皇フランシスコが決定いたしました。アシジのフランシスコは、「清貧、平和の人、そして自然を愛し守る人」でした。新教皇様は、「清貧な、貧しい人々のための教会」をお望みとお話されました。この優しさにあふれた教皇様と復活を祝えることを感謝しつつ、「タリタ・クム！ 14号」をお届けします。

ニュース 第37回 カトリック映画賞決定

2012年度日本カトリック映画賞が、「隣^{とな}る人」刀川和也監督、アジアプレス・インターナショナル制作・配給（カラー 85分）に決定しました。

同作品は、ある児童養護施設の日常を8年間にわたって記録したドキュメンタリー映画です。震災、原発事故、死刑制度など社会問題に鋭く切り込む記録映画も多い中、この作品が描くのは小さな施設の子どもたちと保育士たちのささやかな日常生活です。しかし伝わってくるのは、決してささやかなものではありません。ナレーションや音楽、説明の字幕さえも廃したこの映画で、血縁のない「家族」の日常を見ているうちに、観客は「本当の家族って何だろう」「愛とは」という極めて重要な問いに向き合います。母親に拒否され複雑な心情のムッチャン（9歳）に、親代わりの保育士のマリコさんが言う「どんなムッチャンも大好き」という言葉を聞いたムッチャンの顔が美しく輝く場面に心が揺さぶられます。「どんな時にも隣にいるよ」と言ってくれる存在を子どもたちはどれほど痛切に求めているか。たとえ何もできなくても居続ける人が「隣る人」——子どもだけではない。私たちもまたそういう人を求めているのではないのでしょうか。そんなことに気づかせてくれる愛しさ溢れる傑作です。

来る6月22日（土）午後 川崎市麻生区の川崎市アートセンターで授賞式と上映会が行われます。当日は刀川和也監督と児童養護施設「光の子どもの家」菅原哲男理事長、カトリック多摩教会主任司祭、晴佐久昌英神父とのトークも予定されています。（鈴木）



第17回 インターネットセミナーが開催されました

第17回「教会とインターネット」セミナーが、2月23日（土）東京カテドラル・ケルンホールで行われました。今回は、「SNSと福音宣教」をテーマに考えました。

まず幸田和生司教は基調講演で「Facebook（以下FB）をどのように使っているか」を紹介しながら、このメディアの有効性について話されました。つづいて SIGNIS からFBの特性を生かした福音宣教の可能性についてレポートがありました。

後半のフリートークでは、高幡教会の森裕行さん、保土ヶ谷教会の亀井弘和さん、そして新宿シャローム教会の横永剛志さんが、それぞれどのように福音宣教を意識しながらFBを使っているのかということについて話されました。特にFBの友だちとの「シェア（わかちあい）」の質をめぐっての話に興味をひかれました。これからどんどん発展していくテーマになると思います。（土屋）



長崎にゆり

好かれなきゃ！

下窄 英知

「何言ってるんだ。まだまだこれからでしょう。」と先輩からお叱りを受けることと思いますが、40代も後半になると、いわゆる老化というものを実感させられます。がむしゃらに突っ走ることができなくなり、ゆったりと自分のペースで日々を過ごしたいと強く願っていますが、あれしてくれ、これしてくれと周りにけしかけられ、若い時よりも走らされている気がします。教区の広報委員長も交代していただいたのですが、新たな懸案が次々と持ち込まれ、「もう無理」と叫びたい衝動にかられることもあります。そんな中で、わたしが心がけているのは、少しでも効率的に、かつ楽しく任務をこなしていくために、人から嫌われないようにしようということです。「俺は頑張っている」、「自分のやっていることは正しい」、「だれも分かってくれない」という姿勢ではなく、「自分は力不足だ」、「もっといい方法があるのでは」、「理解者とともに歩んでいる」という気持ちで人と接するようにしています。とにかく、人から好かれる人間になろう、人間関係を大事にしよう、それだけです。意思の伝達にはテクニカルな側面も必要だとは思いますが、なりよりも大切なことは素直な気持ちであることでしょうか。自分自身がよいコミュニケーションを心がけることで、よい広報担当者になれるのではないのでしょうか。（司祭 長崎カトリックセンター館長）

会員紹介 「その時！」

谷口ひろこ

いまが一番いい時間を過ごしているように思います。

幼児洗礼でカトリックの学校へ通い、何となくカトリック信者だったような学生時代でした。そして卒業し、少しずつ教会から離れてしまうことに。それから長い年月が過ぎたときに友人が亡くなったことで、いまの生活で何か足りないものがあると感じ始め、たどり着いたものが、「私はカトリック信者だった」ということでした。

それでもすぐに教会へ行く勇気もなく、不安や聞きたいことがたくさんありました。そのような時にインターネットで相談できる司祭を知り、「教会から長く離れていたことを話し、どのように戻ればいいでしょうか。今のお祈りやミサはどのようになっているのですか？……」などをお訊ねしました。そのような私に第一番に「あなたが教会に戻ってくることを神さまは喜んで待っていてくださっていますよ。」と思ってもみなかった言葉に驚き、とても大きな喜びと勇気をいただきました。そして学校時代の友人にも助けられ、教会へ戻ることが出来ました。

それからの私にとっては、その時、そのときが一番いい時間になっています。教会へ行きミサに与かり、教会の方々とおしゃべりし、何か出来ることを手伝い、徐々にですが教会の外にも飛び出し、自分が求めているものを探そうと思いました。そして SIGNIS のセミナーに出席する機会があり、回を重ねていくうちに私にも出来ることがありそうと思い、会員になりました。自分らしいことで自分の範囲で出来ることを探せば、いろいろあるものです。たくさんの方々に出会い、人っていいなあ、生きているって楽しいなあと思っています。同じような思いでいる人が近くにいる安心感は、喜びであり、こころ強いものです。「信仰は常に確かめ合っていないと高められません。」という言葉がひびき、それを実感している毎日です。信仰を持っている喜びをそれぞれが語り、知らせていけたらいいですね。



お勧め映画紹介 ひまわりと子犬の7日間

井手口 満

この映画は、保健所の動物保護管理所に勤める神崎彰司と、野犬親子の愛と感動そして、実際に起こった奇跡の物語。

彰司は、妻千夏を交通事故で亡し、母親の琴江に助けられながら里美と冬樹と過ごしていた。彼は、保護された犬を娘の里美に手伝ってもらい一匹でも犬を助けようと里親探しもしていた。ある時彰司は、里美から里親が見つからない犬はどうなるのかと尋ねられ、「1週間以内に飼い主が見つからないと処理される」と伝える。ショックを受けた里美は、父親と口を利こうとしない。そんな時、野犬の保護要請が来た。

彰司たちは、子どもを守ろうと威嚇する母親犬にやむを得ず麻酔用の吹き矢を使う。彼は、獣医の五十嵐美久に子犬の健康診断を頼むが、まだ麻酔が効いている体で自分の子どもを守ろうとする親犬にどうすることもできない。

美久は、彰司から娘のことを相談され、彼の仕事場に里美を連れて行く。里美は、子どもを守ろうとする親犬に自分の母親を重ねて、「絶対に、この犬たちを助けて」と彰司に頼む。彰司は娘の真剣な頼みに頷くが、刻一刻と迫ってくる犬たちに残された期限に苦悩する。

この映画は、ただ単に動物と人間の命を扱っているだけではなく、家族のあり方を扱っている。心を開けない親犬に悩む彰司に子どもたちは、「簡単なことだよ、『ぎゅー』と抱きしめてあげたらいい」と言う。当たり前だが子育ては、愛情を込めて育てなければいけない、ということを考えさせられる映画である。

(聖パウロ修道会)



賛助会員になってください！

私たち SIGNIS JAPAN の活動をサポートしてくれる賛助会員を募集しています。年に1度、賛助会員のための感謝のミサを東京地区で予定しています。詳細が決定いたしましたら、賛助会員になっていただいた方にご連絡させていただきます。年会費は一口3000円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記にお知らせください。年会費およびご寄付は、銀行口座または郵便振替口座にお振込をお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹
郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹